



助け合える社会

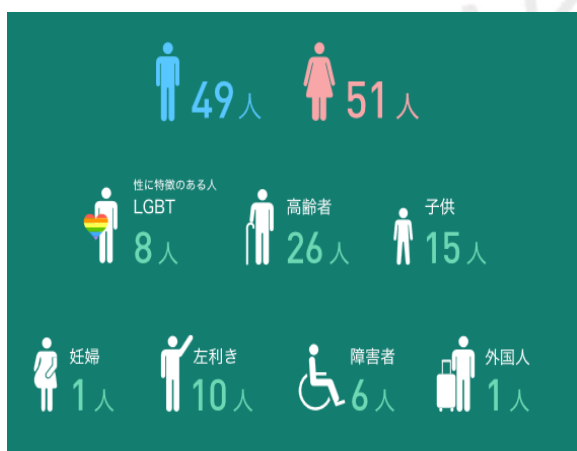
街で困っている人を見かけたとき、みなさんはどうしますか？「声をかけたいけど、勇気が出ない」「迷惑かも…」など、ためらう方が多いかもしれません。そんなときに思い出していただきたいのが、『ユニバーサルマナー』。以前（No.38）ご紹介しましたが、さらに詳しくお伝えいたします。

年の瀬に向けて、足早に通り過ぎる人が増えてきます。そんな時期だからこそ、立ち止まって、「何かお手伝いできることはありますか？」と声をかけることができれば、素敵ですね。

ユニバーサルマナーとは

ユニバーサルマナーとは“自分とは違う相手の視点に立って考え、適切な理解のもと行動すること”。特別な知識ではなく、「こころづかい」のひとつです。このイラストは、日本の人口を100人に例えた場合のものです。それぞれに異なるニーズがあり、時には困っていることがあるかもしれません。まわりは、無関心でも過剰な対応でもいけません。まずは見守りましょう。障害は人ではなく、段差や階段などの環境にあります。例えば、電車で杖をついた方が乗ってきました。座っているあなたは、どのように行動しますか？「どうぞお掛けください」と、すぐに席を譲りますか？それとも様子を見て、「よろしければ、お掛けになりますか？」と声をかけますか？もしかしたらその方は、体幹機能障害の方で座りたいのかもしれないかもしれません。もしくは、腰が痛い方で座ったり立ったりするのが大変なのかもしれません。杖をついているという見た目だけでは判断できないことが、たくさんあります。声をかけることを迷うのは、多様な方々の視点がわからないから。私たちは、「知っているだけ」で、できることがあります。

特別扱いではなく、自然に行動できれば、お互いに心地よく過ごせそうですね。



(参照：日本ユニバーサルマナー協会ホームページ)

ご存知ですか？ 障害者に関するマーク

ヘルプマーク



人工関節や難病の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせやすくするために作成されたマークです

耳マーク



聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマークでもあります

オストメイトマーク



人工肛門・人工膀胱を造設している人（オストメイト）のための設備があることを表しています



ハート・プラスマーク

心臓、呼吸機能、腎臓など「身体内部に障害がある人」を表しています

(参照：内閣府ホームページ)



ユニバーサルマナーマーク

**ハード（設備）は変えられなくても、
私たち一人ひとりの「ハート」は今すぐに変えられます。**